研究紀要

くらしをひらく子ども

―― 個性豊かに自己を表現する姿を求めて ――

1995

島根大学教育学部附属小学校

教育実践研究をきりひらく

── 序にかえて ──

本年は、本附属小学校の創立120周年にあたる。また、戦後50年という節目の年でもある。

これを契機に、温故知新、長い本校の研究の歩みをたどりながら、改めて現在の研究のあり方とこれからの方向を検討したい。

本校は、明治８年、松江市殿町のある家老屋敷跡に「小学校教員伝習校附属小学校」として誕生する。以後改称され、戦前までの70年間は、主として「島根県師範学校附属小学校」であった。

明治の初めから、教員養成の一角にあって、制度的にも整わない条件のもとにありながら、研究は常に先進性と気概に満ちたものであった。研究成果の普及・啓蒙には格段の努力を払う気風を持っていた。

明治の中頃から発刊された「島根県私立教育会雑誌」をみると、本校の訓導（教官）たちの活躍ぶりがよくわかる。その頃、すでに「教授細目」や「教授草案」が検討し合われたり、「実地授業批判研究会」なども盛に開かれている。

明治39年に『教育研究録第壹輯』が出版される。ほぼ全訓導の論文が載っている。この年の校訓には「ジブンノコトハ　ジブンニテセヨ（略）ヒトノタメヲオモヘ　ゲンキヨクアレ」とみえる。時代的な限界はあるが、児童の自主性の尊重をはじめ、生活における人との関わり方や生き方の主張がよみとれる。

大正２年には、第１回の「小学校教授研究会」が開催され、以後毎年継続される。

昭和９年には、教育雑誌『パイオニア』（翌年から『教育開拓』と改称）が発刊される。「本誌は島根県師範学校附属小学校教育研究会の機関として本県教育諸賢と共働し、諸般の教育問題を調査研究し之を発表する」などの３項目の発行の目的が書かれている。

こうして本校は、毎年研究会を開き、教育雑誌を刊行するかたちで、教育界に貢献するようになる。さらに、時おり単行本を出版する。戦前では、例えば、『各科学習指導法』（弘文館　昭和７年）、『国民学校の理解と実践』（明治図書　昭和16年）など数点の刊行が確認できる。

今、「戦後教育50年」が、ふりかえられている。本校の独自の歩みも重ねながら、これからを考えたい。

本校は、昭和20年に校舎の大半を解体したり、市街周辺に疎開したりする。昭和22年には、校舎を復興、同時に戦後第１回の「教育研究発表者協議会」をスタートさせている。「新教育」の研究をいちはやく手がけ、その成果を公開している。児童が生活から学び、生活を創り出していくことを強く重視したこの期の研究は、今、改めて学ぶべきものを多く含んでいる。

本校が『近代学力』を出版した昭和35年頃から昭和40年代は、経済の高度成長が顕著に進んだ時期であった。受験戦争もその対応教育も進んだ。児童の生活や育ち方が変ってきたと指摘されもした。

この間、本校は「追求する力を育てる教育」をテーマに２著書を連続的に刊行している。昭和48年には、児童の生活の抜本的見直しをはかって、学校生活の「ゆとりと充実」を提言し、「全校活動」の名で、土曜日のあり方を含む先駆的実践を開始している。

やがて、「追求する力を育てる」は、「子どもがつくる授業」に、そして今日の「くらしをひらく子ども」と研究テーマは引き継がれてきた。本校がこれまで一貫して追い求めていたものは、主体的で創造的な生き方のできるたくましい子どもの育成であったと言えるであろう。

節目の年にあたり、あらためて本校の研究が、今後とも教育界に一層貢献し続けるものであるよう努力することを誓いたいと思う。また関係各位の変わらぬご支援とご教導をお願いしたいと思う。

平成７年６月８日　　学校長　有　馬　毅一郎

目　　次

序にかえて…… 学校長　有　馬　毅一郎

Ⅰ　くらしをひらく子ども …… 1

－ 個性豊かに自己を表現する姿を求めて －

Ⅱ　教科における授業の構想と実践

国語科　子どもが「読み」をつくる授業 …… 5

－ 一人ひとりの表現を価値のあるものにするために －

社会科　子どもが自分との関わりで社会事象にせまっていく授業 …… 22

算数科　子どもが数理を追求していく授業 …… 36

理　科　子どもが自ら自然を探求していく授業 …… 48

－ 子ども一人ひとりの見方や考え方が生きるとは －

生活科　子どものくらしが広がる生活科の授業 …… 60

音楽科　子どもが感じたことを豊かに表現できる授業 …… 72

－ 一人ひとりのよさを表現に －

図工科　子どもが楽しみながらイメージをふくらませる授業 …… 84

家庭科　子どもが自らのくらしを豊かにつくっていく授業 …… 91

体育科　子どもがイメージをふくらませ表現していく授業 …… 97

特殊教育　子どもたちが楽しむ学校生活 …… 114

－ その子の表現を大切にする援助を求めて －

保　健　子どもがこころをひらく保健室経営 …… 131

－ 一人ひとりの思いが表出できる環境づくりと支援 －

おわりに …… 副校長　佐　貫　泰　則

研究同人

研究同人

（平成6・7年度）

学校長	有馬毅一郎	副校長	春日一男
			佐貫泰則（平成7年度）
教頭	瀧野一夫	研修部長	赤木直行
国語	岡利道	瀧哲朗	
	昌子佳広	金山剛志（平成7年度）	
社会	赤木直行	奥村忠孝	
	吉崎朗		
算数	山崎敦史	原一夫	
	川上宜久	立石浩（平成7年度）	
理科	和泉浩行	高橋泰道	
	原啓一朗	仙田みずえ	
生活	赤木直行	酒井謙司	
	高橋泰道	瀧哲朗	
	若槻尚美		
音楽	岡田正樹	中村治子	
	和田かおり	山崎博美（平成7年度）	
図工	瀧野一夫	陶山弘志	
家庭	黒崎淑子		
体育	中筋幸夫	酒井謙司	
	若槻尚美		
特殊	西島博	奈良井正	
	天野千里	山本勉	
	杉村明子		
保健	原田睦子		

この研究紀要に収録されている授業記録は、次のような約束にもとづいて記載されています。

┌ 女児を表す（男児はなし）

60 黒崎° 直列つなぎは、線が、1すじになっていて、並列つなぎが2すじになっている。

└ その時間の発言の通し番号を表す

平成7年6月8日　印　刷
平成7年6月8日　発　行

発 行 所　　島根大学教育学部附属小学校
〒690　松江市大輪町416の4　（TEL21－2471）

印 刷 所　　黒　潮　社
松江市向島町182の3　（TEL21－3409）